

南京国際平和通信

第 67 号(2025 年 5 月)

当館の研究誌『日本侵華南京大虐殺研究』英日仏語版が
アブダビ国際ブックフェアで公開

2025 年 4 月 26 日から 5 月 5 日まで、第 34 回アブダビ国際ブックフェアがアラブ首長国連邦アブダビの国家展示センターで開催された。同フェアにおいて、当館の研究誌『日本侵華南京大虐殺研究』英語版、日本語版、フランス語版が初出展され、外文出版社が主催する「文明対話促進とグローバル安全保障共有」というテーマの展示エリアで目玉図書として並べられた。

2019 年以降、当館は南京大虐殺研究の優れた成果を選んで英語版、日本語版、フランス語版を翻訳出版し、アメリカ、日本、英国、フランス、ドイツ、ロシア、カナダ、オーストラリア、ブラジル、南アフリカなど 53 か国と地域で発行した。海外の知名な大学、主要な図書館、研究機関と学者などを対象に、中国人民が歴史を忘れず平和を愛する理念を伝えている。2024 年には、外国語翻訳版が「CTTI 中国シンクタンク索引・研究優秀成果特別賞」を受賞した。



アブダビ国際ブックフェア



中国ブックの展示コーナー

南京大虐殺史実展海外展が「文明の架け橋計画」に選定

2025 年国際博物館デーに、記念館主催の「世界記憶 平和のビジョン——南京大虐殺史実展」が中国国家文物局『文明の架け橋計画——文物輸出展示優秀プロジェクト』に選ばれた。



近年、記念館はフランス、チェコ、ベラルーシ、デンマーク、スペイン、ハンガリーなどの国々で次々と展示を開催し、南京大虐殺という「世界記憶」を通じて「平和のビジョン」の実現を目指している。



ブダペストで「世界記憶 平和のビジョン——南京大虐殺
史実展」を開催



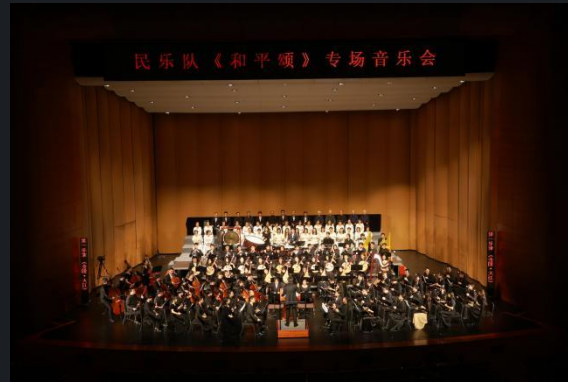
スペインのマドリードで「世界記憶 平和のビジョン—— 南京大虐殺史実展」を開催

清华大学など九つの大学芸術団が『平和頌』を演奏

最近、清華大学学生芸術団民族楽団および8つの大学の学生民族楽団と共に『平和頌』コンサートを新清華学堂で開催した。

『平和頌』は南京大虐殺という大きな歴史的テーマを扱った中国初の民族音楽作品である。作品は中国の著名な作曲家・趙季平氏が世界反ファシズム戦争を記念するために創作したもので、壮大な音楽の言語で先人への追悼、歴史への敬意、平和への願いを表した。

侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館館長周峰氏がコンサートを観覧し、公演される前に「偉大な精神を継承し、平和の新たな局面を語る」をテーマとする楽団の代表との座談会を行った。



20 年を超える平和の約束が中国『人民日報』に掲載

中国『人民日報』5 月 31 日付の記事によると、5 月 26 日、日本石川県金沢市で日本の「紫金草合唱団」のメンバー約 20 名が合唱曲『平和の花 紫金草』の練習を行った。この合唱団は 3 月頃に中国南京で「歴史を銘記し、平和を愛する」テーマとする「紫金草合唱コンサート」に参加し

た。公演では、高齢な日本人の団員が中国の子どもたちと手をつなぎ、中日両言語で『紫金草物語』などの曲を合唱し、平和への願いを表した。

2001年、日本紫金草合唱団が初めて中国訪問の旅を始められた。20年以上の交流を続中、記念館と手を携えて歩み、平和のためにこれまで頑張ってきた。2023年、記念館が南京市教育局や市婦人連合会と共同で南京紫金草児童合唱団を設立し、平和理念を伝える活動を行っている。



中国の端午節、記念館を訪れた観客の声

端午の節を迎え、多くの親子連れや若者たちが記念館を訪れた。北京から訪れた姉弟は「南京大屠殺史実展」の「鉄の書」コーナーの前で、姉の王雨晨さんが弟にこう語りか

けた：「この鉄の書に刻まれた一つ一つの名前の裏には、私たちと同じような家族の物語があったんだ。歴史の証拠は揺るぎない、歴史を決して忘れてはいけない」。



中国安徽省亳州市から訪れた親子が『ラーベ日記』を朗読した。母親の孫華麗さんは「厳かでありながら温かみの儀式を通じて、子どもが少しずつ歴史の重みを理解できるようになった」と語った。



5年前、黄皓文さんは初めて南京大虐殺記念館を訪れた。5年後に大学生となった彼は恋人と共に再びこの地を訪れ、「毎回の見学で愛国心がさらに深まる。私たちは知識を懸命に学ばなければならない。屈原氏の言葉を借りれば『道

のりは遥かで遠いが、私は上下を求めて探求する』」と話した。



中国河北省からの来館者が記念館の寄せ書き帳にこう記した：「初めて南京を訪れた。到着までの6時間の高速鉄道の旅では、アイリス・チャン氏の『ザ・レイプ・オブ・南京』を読んでみた。第四章まで進んだところだが、彼女の簡潔ながらも強く引き込まれる文章に感銘を受け、皆さんにもぜひ読んでほしいと思う。南京は再生した街、再び輝きを取り戻した街だと感じている」。

2025 南京国際平和ポスタービエンナーレ作品募集開始中

2025 年南京国際平和ポスタービエンナーレの作品募集が正式にスタートした。今回のビエンナーレは「歴史が未来を照らす (History Illuminates the Future)」をテーマに、世界中のクリエイターに対し、ビジュアルの力で歴史と未来の対話を探求し、「平和のためのデザイン」に参

加するよう呼びかけている。

募集対象：世界中のデザイナー、美術・デザイン系の専門家・学生、アーティスト、デザイン機関

締切：2025 年 7 月 30 日 24 時（北京時間）

参加方法：以下の QR コードをスキャンし、IPBP 南京国際平和ポスタービエンナーレ公式ページにアクセスしてオンライン登録を行ってください。

